

令和3年12月2日

着衣着火の事故にご注意ください！

2021年11月、千曲坂城消防本部の管内において、調理実習中、ガステーブルを使用した際、こんろの火が給食用エプロンへ燃え移ったため、やけどを負う事故が発生しました。

■着衣着火とは

着用している衣服に火が燃え移り、燃え上がる現象のことを「着衣着火」といいます。着衣着火は、腹部などに燃え移ると大変危険で、重いやけどや死亡に至る場合があります。

「着衣着火」は、ちょっとした不注意で誰にでも起こりうる現象です。

最近ではIH調理器の普及により、裸火を取り扱う機会が減少していますが、使用する際は注意してください。



■着衣に着火した時の対処法

もし着衣に火が付いてしまったら、大きな炎を手で叩いて消すのは困難です。

- ① 素早く脱げる場合…着火した服を脱ぎ捨ててください！
- ② 脱げない場合…すぐに水で火を消してください！
- ③ 服が脱げず、身近に水が無かった場合…

慌てて走り回らず「ストップ、ドロップ&ロール」の対処法を行ってください！



「ストップ、ドロップ&ロール」とは…

アメリカの消防士たちが考え、日本でも徐々に広まっている着衣着火に対する対処法です。



問い合わせ先
千曲坂城消防本部
予防課 予防係
電話(代)026-276-0119